

今週のメニュー

■トピックス

◇硬質ポリ塩化ビニル樹脂（塩ビ）リサイクル製品の紹介

■随想

◇ららら、プラスチック（17） リユースカップとあんぱん

元 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

■トピックス

◇硬質ポリ塩化ビニル樹脂（塩ビ）リサイクル製品の紹介

国内で製造販売している硬質ポリ塩化ビニル樹脂（塩ビ）をリサイクルした製品の紹介をする。

このリサイクル製品の名称は「カクラック」で東栄管機株式会社が製造販売している。

四角いパイプと専用継手等をラインナップし、自由に組み合わせて様々な物を作ることができる。角パイプの寸法は28mm角、長さは1mと2mがあり、用途に合わせ切断する。角パイプは専用継手により接続しビスで固定する。専用継手はエルボ、チーズ、キャップ、三又や五又等各種取り揃えている。（詳しくは[パンフレット](#)を参照）

製作可能な製品として、ラック（棚）、仕切りやパーティション、キャスターを付ければ台車などアイデア次第である。

色は汚れ難い黒色（ブラック）で高級感がある。黒色にすることで、塩ビリサイクル材を使用しても色のばらつきを無くす（目立たなくする）ことができる様になっている。

塩ビの特徴を活かして耐久性が高く、耐薬品性にも優れ、高い強度で長期の使用が可能となっている。また、耐水性が高く錆びない為、水廻りの使用にも適している。

ターゲットとして、業者、自治体、個人DIYユーザー向けに、イベント会場、倉庫、屋内プール、温泉施設、事務所や室内等が考えられる。



この製品の塩ビリサイクル材は、製造工程内から出るゲート部の樹脂※、スタート、ストップ時の不良品等を使用している。新しい塩ビ樹脂の使用を無くすことで、資源循環に貢献し産業廃棄物の削減やカーボンニュートラルに寄与している。東栄管機では「カクラック」以外にも「黒継手」：黒いパイプ及び継手、「分水栓」、「タケノコジョイント」、「散水用ワンタッチ継手」等の各種リサイクル製品を製品化し

ている。

※射出成型金型内の製品部に樹脂を流し込むための流路

塩ビのリサイクルとしては、塩化ビニル管・継手協会が行っている塩ビパイプのリサイクルシステムが代表と言える。この塩ビリサイクル材を使用してリサイクルパイプの製造が行われているが、この使用量は未だ一部となっているのが現状である。今後、この塩ビリサイクル材を使用したリサイクル製品への展開も期待したいところである。

(※ カクラックの製品詳細は、[東栄管機株式会社](#)まで)

カクラックパンフレット [カクラック\(第10版\)2502.pdf](#)

■ 随想

◇ららら、プラスチック (17) リユースカップとあんぱん

元 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

最近、リユースカップ等のリユース容器に関する話題に触れる機会が増えてきた。私がリユースカップを事業として使用している例を知ったのは、2015年に開催された「東京23区とことん討論会」だったと記憶している。討論会の基調講演で講師を務められた”ハイムーン”こと高月紘 京エコロジーセンター館長（当時）から、京都市内のイベント（確か、祇園祭だったか）にポリプロピレン製のリユースカップが導入されたことが紹介された。その時私は、使用済みカップの衛生性は担保できるのか、と質問した覚えがある。

それからほぼ10年経った昨年、打合せで訪問したある会社の会議室で、お茶がリユースカップで出された（写真1）。洗浄は外部に委託とのことだった。

筆者がメンバーに名を連ねているCLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）※のワーキング・グループ（WG）でも、リユースカップの普及に向けた検討が行われており、昨年の勉強会ではメーカーによるリユースカップ洗浄機の説明があった（写真2）。

※海洋プラスチック問題の解決に向け、プラスチック製品の持続可能な使用や、代替素材の開発・導入を推進することを目的に、業種を超えた連携によるイノベーションを加速するためのプラットフォーム。経産省の主導により、2019年1月に設立された。



写真1. リユースカップ
（訪問先にて筆者撮影）



写真2. リユースカップ洗浄機
（CLOMAの勉強会にて筆者撮影）

また、東京都もリユースを推進する事業に積極的に取り組んでおり、「都庁プラスチック削減方針」では、「都の事業運営におけるワンウェイ（使い捨て）プラスチックの削減等を推進する。」とし、基本原則の冒頭で、「・・・必要性の低いワンウェイプラスチックの使用を削減して、繰り返し利用できるものの利用を推進する。」とし、昨年度にはリユースカップの製造、洗浄設備機器の整備等の促進のための補助事業を開始したほか、リユース体験イベントを開催している（図）。



図. リユース体験イベントのポスター
(東京都のHPより)

著者が日本プラスチック工業連盟に勤務していた2019年頃、職場の近くに小さなパスタの店がオープンした。小さな店で、入って見ると洗い場が見当たらないことに疑問を感じながらもパスタを注文すると、透明な薄肉プラスチック容器に盛られた料理に、プラスチック製のフォークとスプーンが添えられて出てきた。食べ終わると、紙もプラスチックも、そして食べ残しも、分別することなくダストボックスに投入……。そう、全て焼却処理に回すのだ。罪悪感を覚えながらも、「あれはオープン時で人手が足りないからで、今は違っているかも」と、しばらくしてから再度覗いてみたが同じだった。

先日、久しぶりにプラ工連に行く機会があり、近辺を歩いてみたが、あのパスタ屋は無くなっていた。その後のコロナ禍を乗り切れなかったのかも知れないが、近隣の懐かしい飲食店の多くが生き残っているところを見ると、あの「使い捨て」スタイルが客から敬遠されたのだろう。



写真3. 柏餅パン
(2025年5月5日 筆者撮影)

プラスチックの使い方に疑問を感じた最近の例をもう一つ紹介する。

先日、近所のパン屋が「柏餅パン」なる代物を売り出していたので買ってみた。何のことはない、あんぱんにプラスチック製の葉っぱが乗っているだけで（写真3）、プラの葉は袋から取り出されて捨てられる。何だか悲しくなってしまった。

ちょっと暗い気持ちになったので、話題を変えよう。

「あんぱん」と言えば、同名の朝ドラ（NHKの連続テレビ小説）が放送されている。ご覧になっていない方のために説明すると、「アンパンマン」等の原作者である漫画家・絵本作家のやなせたかし氏夫妻をモデルにしたドラマで、氏は漫画家・絵本作家としてだけではなく、広く歌われている「手のひらを太陽に」等の作詞者としても知られている。ドラマの第7週放送分のサブタイトル「海と私と涙と」は彼の詩の一つで、合唱愛好者に根強い人気のある作曲家の木下牧子氏の歌曲集「愛する歌」に収録されている。これは、やなせ氏の10編の詩に木下氏が曲をつけたもので、曲集の前書きで作曲家は「複雑な響きを好む私の作品としては、例外的に、ほとんど転調のないシンプルな作りになっています。やなせたかしさんのしみじみと味わい深い詩の世界に寄り添うよう

に優しい気持ちで書いた曲集です。」と紹介している。（音楽之友社「木下牧子歌曲集 1」より）

「海と私と涙と」は、この曲集の中でも私が特に好きな作品で、本稿でその詩を紹介しようとしたところ、編集部から「著作権に抵触する恐れがある」との指摘があったので断念した。「月夜の海にきてみたが 月夜の海は青いだけ」で始まり、「すこし涙がかわくだけ」で終る 16 行の短い詩だが、とても味わい深い作品なので、インターネットで検索するなどして読んでみて欲しい。また、Youtube には数多くの演奏（独唱、合唱）がアップされているので、好みの演奏を探してみるのも面白い。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
